



学生主体のボランティア活動における 学生と大学との関係性の一考察 —「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—

2022/7/31(日)

『災害文化研究』第6号の執筆者と語る会

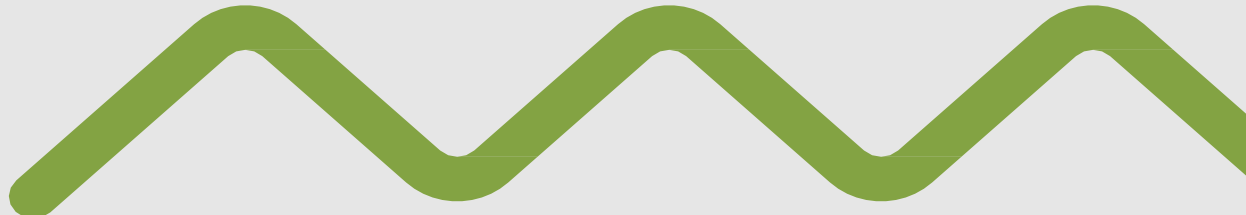
岩手大学 三陸委員会ここより 前委員長
(岩手大学 理工学部 システム創成工学科
社会基盤・環境コース)

学部4年 小室祐人

岩手大学
三陸委員会
ここより



目次

1. 自己紹介
 2. 研究背景（研究ノート1）
 3. 岩手大学三陸委員会ここよりの歴史
（研究ノート2）
 4. 岩手大学三陸委員会ここよりの現状
（研究ノート3,4）
 5. 学生団体と大学の関わり方の提言
（研究ノート5）
 6. 最後に
- 



1. 自己紹介



宮城県 仙台市 出身

(青森、埼玉、福岡にも居住経験あり)

仙台市立仙台青陵中等教育学校 卒業

中学・高校時代はコンクリートの研究



こむろ ゆうと
小室 祐人

三陸委員会ここより 前委員長
まちづくりサークルNPCN OB
VC構想チーム 共同代表

いわて学生ボランティアネットワーク

災害文化研究会 学生会員
高校生連携協議会 OB

岩手大学 工学部
システム創成工学科
社会基盤・環境コース 4年

都市計画学研究室 所属

アルバイト

- ・某大手ハンバーガーショップ
(商品製造・販売業務)
- ・試験監督

在学中の取得資格：

防災士、盛岡防災リーダー

研究ノート：

学生主体のボランティア活動における学生と大学との関係性の一考察 —「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—

研究ノート

災害文化研究第6号
p.17~26

学生主体のボランティア活動における 学生と大学との関係性の一考察 —「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—

小室 祐人

要 旨

近年、学生と大学との間で大学における学生ボランティアの真の目的が異なる実状がある。また、学生主体のボランティア活動の手法が確立していない。本研究では、東日本大震災後から継続して活動している「岩手大学三陸委員会ここより」に注目し、学生主体のボランティア活動を活発に、かつ継続して行うために有効な学生と大学の関係性について、特に学生団体と大学の関係性に着目して一考察を行った。

研究を通して、学生主体のボランティア活動に対する大学の関わり方の一例として、学生団体が発足する前に地域課題を考える場を提供し、発足後は学生の意欲に沿った活動が行える支援を行い、一定の期間が経過した後より学生主体で活動できるように大学の介入を控えるという流れを踏むことが考えられた。また、継続して学生主体の団体が活動するために、大学が介入を控えた後に団体が抱える諸課題について、学生と大学の双方が対処する手法を検討する必要があると考えられた。それ以外にも、学生主体のボランティア活動を活発にかつ継続して行うためには、学生と大学の双方が適切な距離を取りながら心に寄り添った行動を心がけ、大学は学生が相談しやすい場づくりに努めることが重要だと考えられた。

キーワード：学生ボランティア、学生主体、大学、活動継続、心に寄り添う

学生主体のボランティア活動における学生と大学との関係性の一考察 —「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—

1. 問題と所在

学生主体のボランティア活動への大学の関わり方の分析

2. 時系列に沿って

- ・団体設立経緯
- ・設立経緯から分析

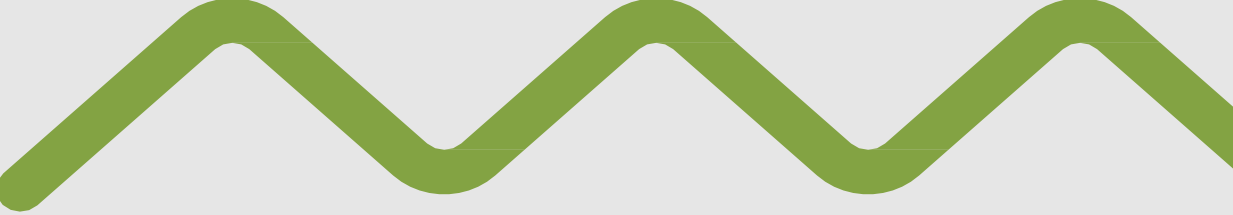
3. 団体について

- ・活動方針
- ・活動形態
- ・活動内容
- ・委員会内アンケート


4. 現状に沿って

- ・現状整理
(意欲への応え・組織運営・継続性)
- ・現状を基にした考察

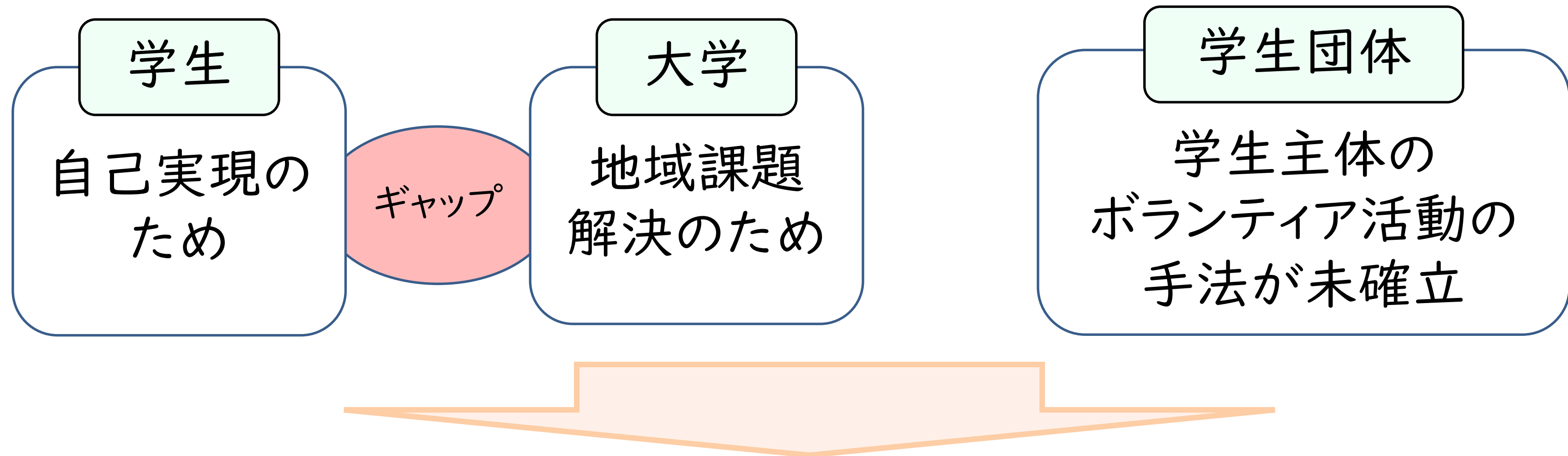
5. 学生主体のボランティア活動を活発にかつ継続して行うための学生と大学の在り方の提案



2. 研究背景



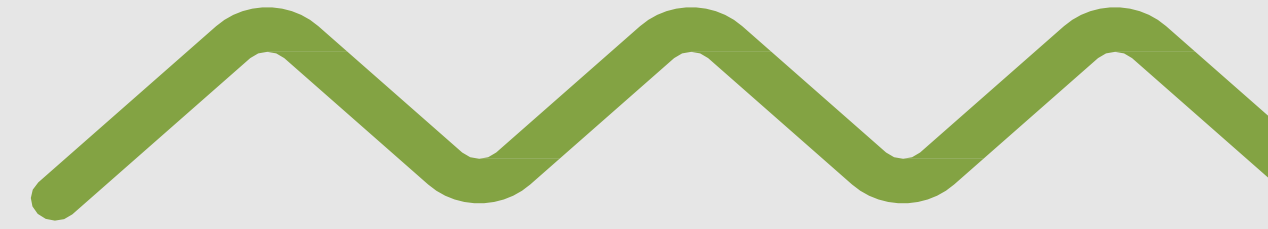
研究の背景 (研究ノート 1)



学生主体のボランティア活動を活発に、
かつ継続して行うために
有効な学生と大学の関係性は？

学生団体(「岩手大学三陸委員会ここより」と大学との関係性に着目

(ここでは、2021年度までの活動を研究対象とする)



3. 岩手大学

三陸委員会ここよりの歴史



岩手大学 三陸委員会ここより(2021年度)

東日本大震災からの復興を支援するため
に立ち上げられた**ボランティアサークル**



- 2011年 「もりもり☆岩手」が設立
- 2014年 「三陸復興サポート学生委員会」
→2016年 サークル化
- 2021年 「**三陸委員会ここより**」

ここに
寄り添って

ここから
進んでいく

筆者の団体への関わり

- | | |
|-----------------------|---------|
| 2019年 | 大学入学&入会 |
| 2020年1月
~2020年11月 | 副委員長 |
| 2020年11月
~2021年10月 | 委員長 |

現在も入会中

メンバー:合計71名

委員(1~3年):27名、サポーター:44名

岩手大学 三陸委員会ここよりの歴史

【2011年 3月下旬:大学としての災害ボランティア開始】

当時の**大学理事と学生らが現地視察**

→正式なボランティア活動開始(学生支援課が中心)

【(時期不明):**活動の中心を学生に移行**】

・学生支援課→ボランティア公認団体「天気輪の柱」・「もりもり☆岩手」

・**教職員が活動に大きく携わる**

・主な活動内容:

がれき撤去, 避難所での支援, 学習支援活動, 被災者の話し相手...

【2011年12月頃:**活動内容の移行①**(ハード面→ソフト面)】

・「天気輪の柱」

がれき撤去の支援→仮設住宅等でのイベント支援

・「もりもり☆岩手」

陸前高田市でボランティアセンターの運営支援を継続

陸前高田市や山田町での学習支援活動も実施

・教職員が会計や交通手段確保などの**事務を支援**

岩手大学 三陸委員会ここよりの歴史

【2013年頃～:学生団体の**大学組織からの切り離し**】

・議論の所以

沿岸被災地域の状況の変化（ボランティアセンター閉鎖など）

学生の団体活動への熱意の喪失の可能性（**立ち上げた学生メンバーの卒業**）

発災時に在学していなかった学生が多い

・大学一組織の学生団体 → 一般サークルや同好会へ

・教職員は**学生団体の自発的で自由な活動を支援**する形へ

「もりもり☆岩手」(@陸前高田)

→「三陸復興サポート学生委員会」(2016年度にサークル化)

(継続して職員が顧問に)

「天気輪の柱」(@宮古)

→「岩手大学YMCA」(2016年度に同好会に)

岩手大学 三陸委員会ここよりの歴史

【2019年頃:活動内容の移行②（「集中復興期間」→「復興・創生期間」）】

「三陸復興サポート学生委員会」

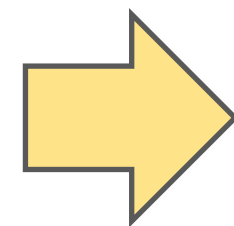
コミュニティ形成支援活動のニーズが希薄に（仮設住宅が撤去が所以）
→活動内容が子どもの遊び場支援のみになり、活動が停滞

2019年度から活動の立て直し

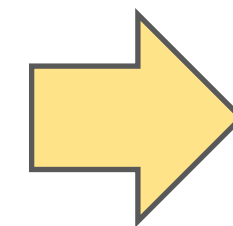
→2021年5月6日午前6時:「三陸委員会ここより」へ改名



もりもり☆岩手
(2011～2014)



三陸復興サポート学生委員会
(2014～2021)



三陸委員会ここより
(2021～)

岩手大学 三陸委員会ここよりの歴史

< 3つの特徴 ~歴史的観点から~ >

教育活動の一環が契機となって自発的な活動が芽生えている

大学が学生の意欲を尊重した支援を行っている点

学生団体が、団体にとっての転換期に大学から独立した点

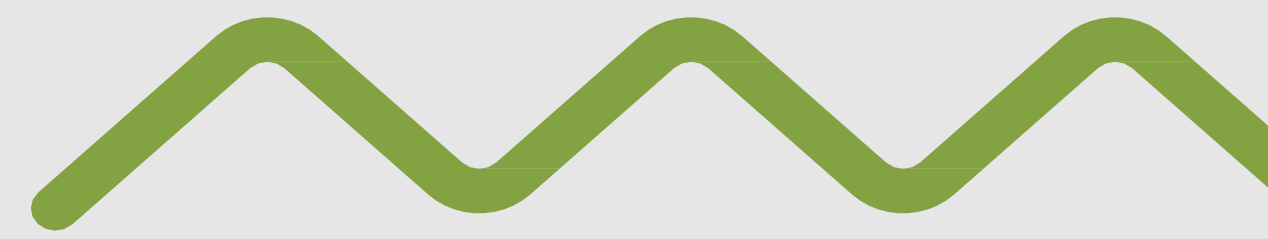
大学

【発足前】
地域課題を考える場を提供

【発足後】
学生の意欲に沿った活動が行える支援

【一定の期間が経過した後】
学生主体で活動できるように大学の介入を控える

学生の自己実現に向けた活動が、自ずと大学の地域課題解決活動に!



4. 岩手大学

三陸委員会ここよりの現状



2020年度～の 活動方針

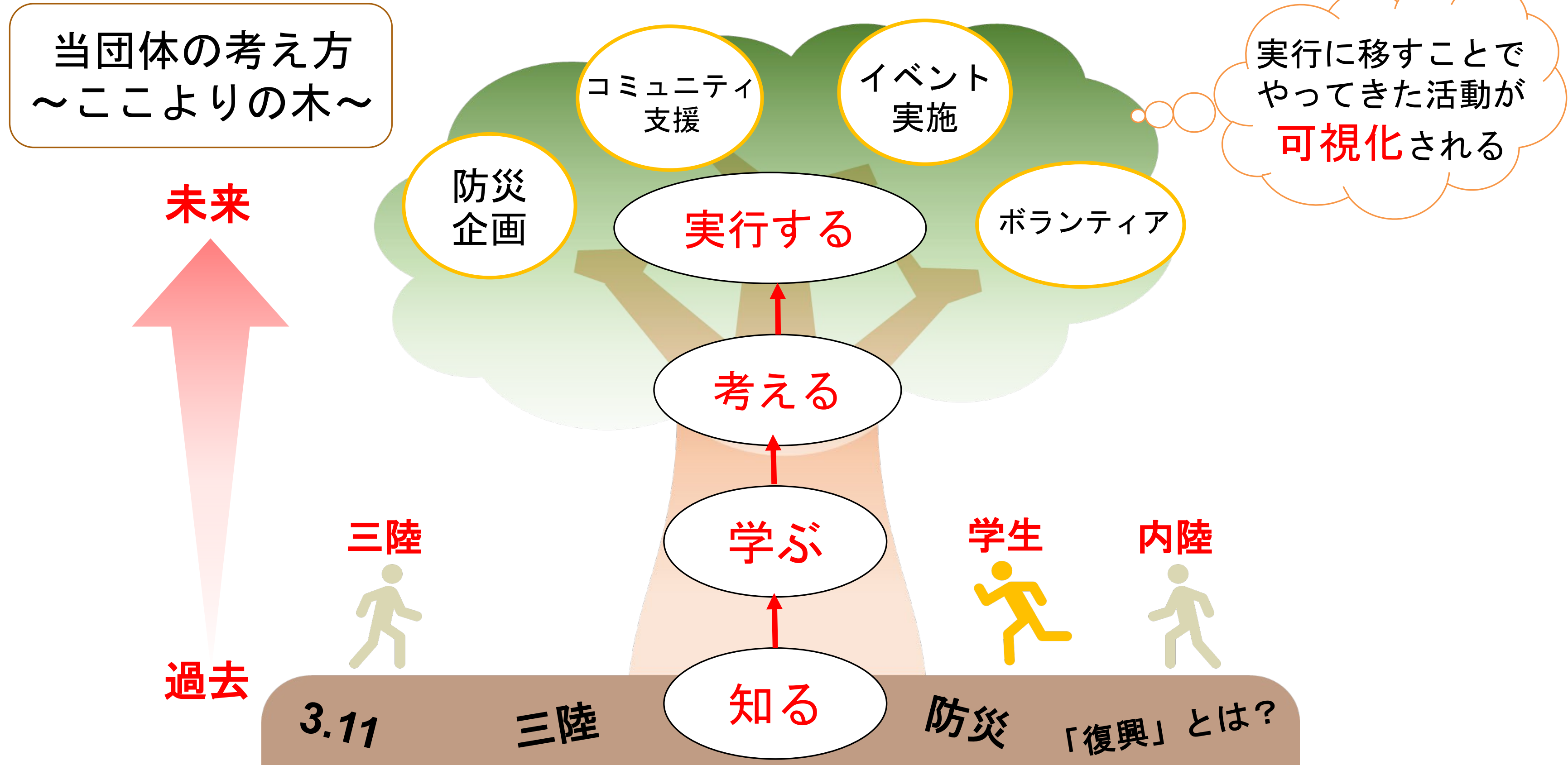
「過去と未来 三陸と人をつなぐ」

過去にあった震災を忘れずその教訓を未来に生かす伝承や防災
三陸の魅力を様々な人に発信し三陸と人をつなげる活動

わたしたちここよりが
いろいろなものの架け橋になりたい!

岩手大学 三陸委員会ここより 活動方針

『過去と未来、三陸と人を繋ぐ』



■ 岩手大学 三陸委員会ここより 活動内容(2021年度) ▶

三陸沿岸地域の応援、復興公営住宅コミュニティ支援、防災啓発活動

・対象：三陸沿岸地域、大学生、内陸避難者

コミュニティ支援



内陸避難者への
地域コミュニティ形成支援

防災企画



盛岡や沿岸地域での
防災活動の実施

イベント



沿岸地域を中心とした
イベント実施

委員とサポーターに分かれています

委員

(週1回のミーティング+不定期の活動)

能動的な活動

- ・イベントやボランティア活動の企画・立案・実行
- ・各プロジェクトへの所属
 - コミュニティ班
 - イベント班
 - 防災班

サポーター

(月1回のミーティング+不定期の活動)

受動的な活動

- ・委員の企画した活動への参加
- ・プロジェクトに関係なく、自分が参加したい活動に自由に参加

2021年度

メンバー:合計71名

委員(1~3年):27名、サポーター:44名

現在の 三陸委員会ここより の特徴



- 学内サークルで、**幅広い学部**の学生が集結
- **学生主体**で活動を実施
(顧問はいるが、団体運営には関与しない)
- 広報手法は主に**SNS**
新入生には「サークルオリエンテーション」も活用
- メンバーを**委員・サポーター**に分けている
- 前身団体から**11年**継続して活動
- NEXT STEP工房(**大学事務** 地域連携推進課 内)から資金の助成や活動の相談を受けられる。



■ 岩手大学 三陸委員会ここよりのメンバーの考え ▶

2019年 委員会内アンケート

○調査概要

(1) 調査テーマ:

「三陸復興サポート学生委員会活動に関するアンケート」

(2) 調査背景:

2019年4月から委員会内で4つの班に分かれて活動をしてきた。しかし活動を実施していく中で、メンバーによって活動に対する考え方ややりたいことの相違などが生じたため、再度**委員会の組織や活動の改変を行うことになった**。その**参考にするために**、当時の委員長である石川涼太元委員長によって行われた。

(3) 調査対象者:2019年11月27日現在の委員会 全メンバー 40人

(4) 調査期間:

2019年11月27日~12月6日(10日間)

(5) 調査方法;作成したアンケートフォーム(Googleフォーム)に匿名で入力

(6) 回答者数:39人(回答率:97.5%)

■ 岩手大学 三陸委員会ここよりのメンバーの考え ▶

2019年 委員会内アンケート(一部のみ掲載)

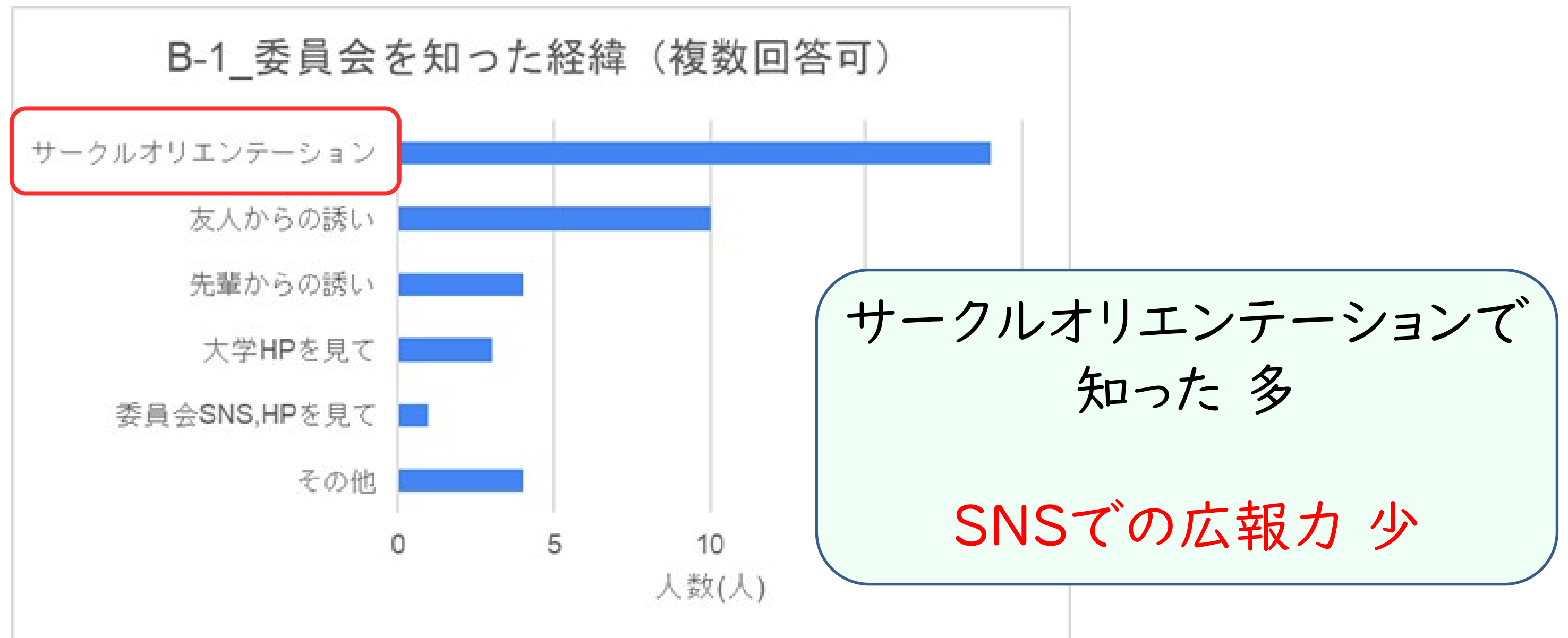


図 2 「委員会ここより」を知った経緯
(複数回答可)

岩手大学 三陸委員会ここよりのメンバーの考え

2019年 委員会内アンケート(一部のみ掲載)

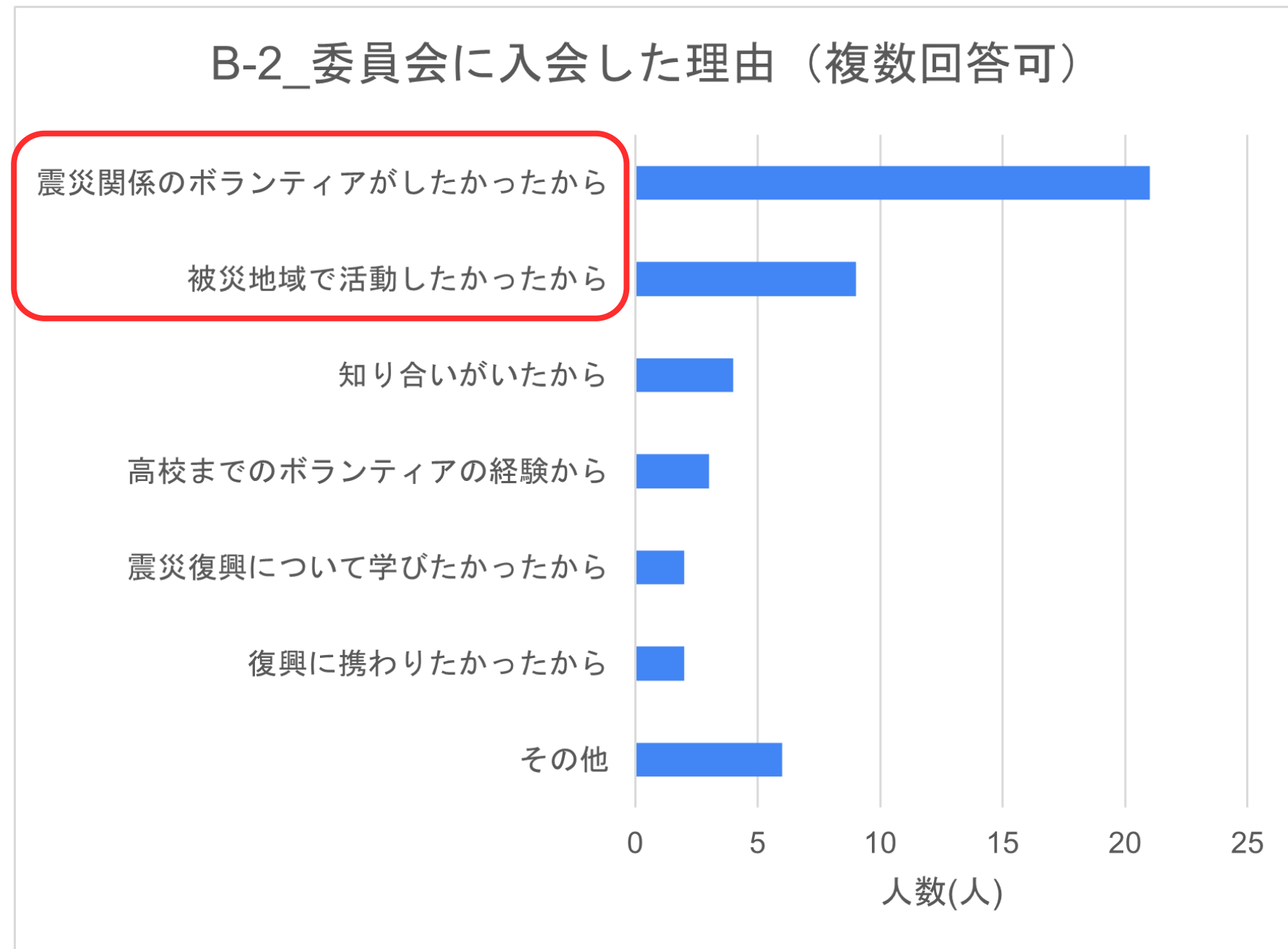


図3 「委員会ここより」への入会理由
(複数回答可)

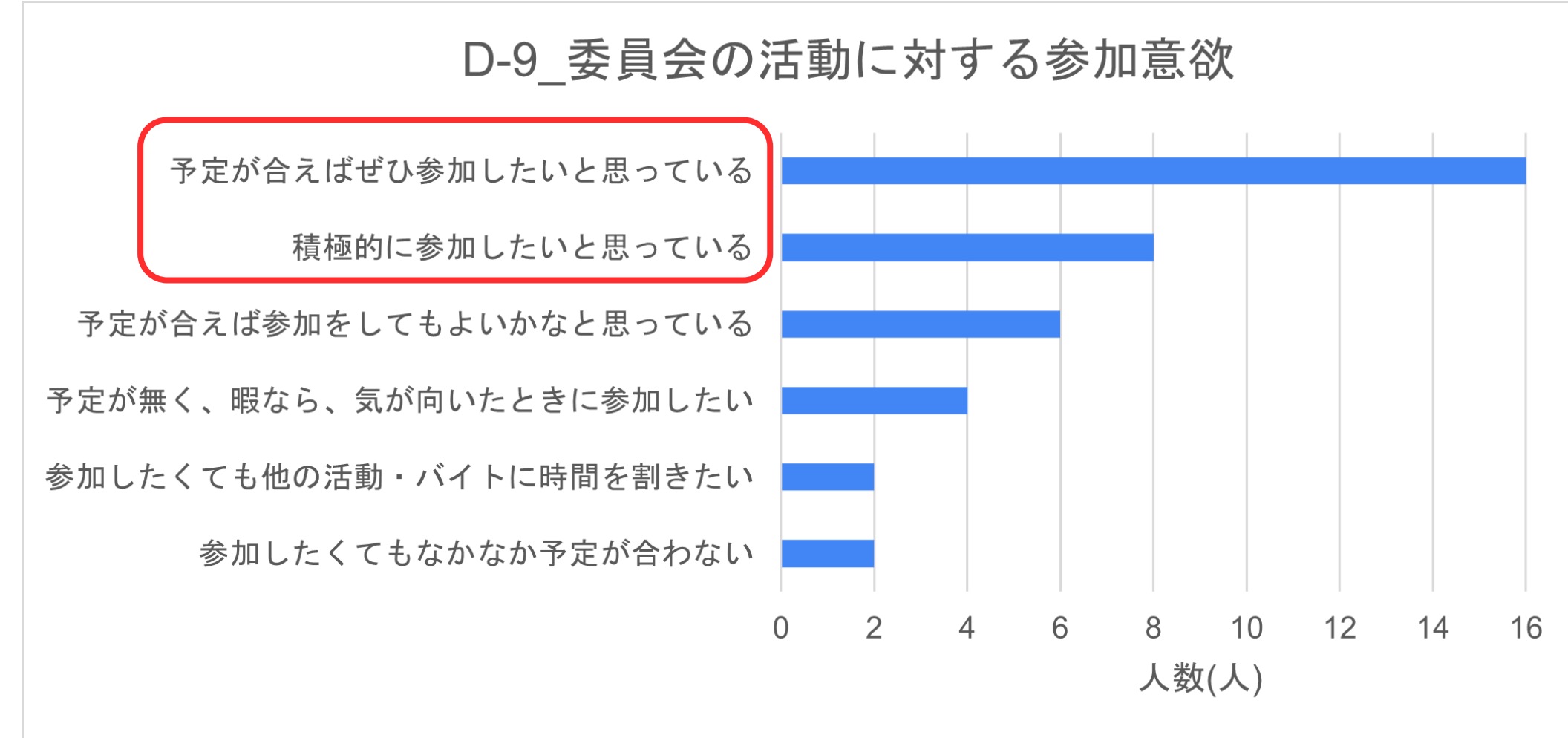


図4 「委員会ここより」の活動に対する参加意欲

入会当初の意欲 ある
活動に参加したいという意思はある

岩手大学 三陸委員会ここよりの現状

表 1 2021 年に各プロジェクトで行った活動の成果の一例

プロジェクト	コミュニティ	防災・減災	イベント
内容	地域食堂	パラコード(防災グッズ)の作成ワークショップ	学内イベント「灯来マルシェ」
日時	2021/ 12/25	2021/ 11/5,12/18	2021/ 12/13~17
場所	南青山アパート集会所	南青山アパート集会所	岩手大学中央食堂前
目的	入居者が複数の人と食事をともしる機会を設ける	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が防災に対する気づきを得て、防災意識の向上を図る ・手を動かす活動を取り入れることで入居者同士がより話しやすい雰囲気をつくる 	多くの学生に三陸の美味しいものや様々な魅力を知ってもらう機会にする
概要	企画決めや準備を学生主体で実施。 当日は入居者と学生で協力して調理したものの提供、住民の有志などによるハンドベルやピアノの演奏会、ケーキ作成会を実施。	企画決めや準備を学生主体で実施。 当日は大学生目線の防災活動や防災の豆知識を共有し、アクセサリーとしても利用できる防災グッズの作成を実施。	三陸沿岸地域の商店の商品を委託販売。 販売する商品の生産者へ取材し、内容をSNSで発信。 三陸をイメージしたキャンドルの作成と広場前での展示。 キャンドル作成では南青山アパートの入居者の協力も得た。
参加メンバー数	計11人 (委員10人、サポーター1人)	計15人 (委員14人、サポーター2人)	計17人 (委員13人、サポーター4人)

メンバー:合計71名
委員(1~3年):27名、サポーター:44名

岩手大学 三陸委員会ここよりの現状

< 3つの課題 ~現状から~ >

学生のボランティアへの 意欲の全てに応えられていない点

気楽に参加
できる活動数 少

サポーターにとっての
活動の不透明さ・
活動への不安感

組織運営に関する点

活動資金が
不十分

広報力が弱い

継続性に関する点

震災からの時間経過による
ニーズ変化への対応 難

学生は4年で卒業
↓
活動の引き続き 難

岩手大学 三陸委員会ここよりの現状

< 3つの課題 ~現状から~ >

学生のボランティアへの
意欲の全てに
応えられていない点

組織運営に関する点

継続性に関する点

メンバー間の
風通しの改良

SNSの継続した発信

引き継ぎマニュアル
を作成
(活動内容・運営手法・
活動理念…)

活動相談できる機能、
外部組織と繋げる機能
の構築

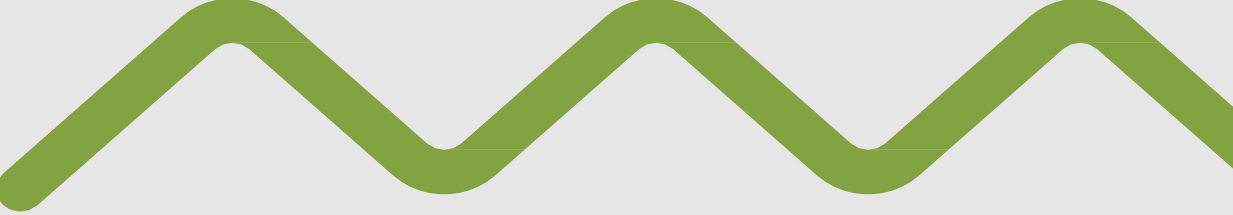
資金の継続補助
広報の補助

顧問の適切な活動把握


学生・大学の双方の努力が不可欠!?
→双方の架け橋となる組織
を設立するのが早い?

学生

大学



5. 学生団体と大学の
関わり方の提言



学生主体のボランティア活動における学生と大学との関係性の一考察 —「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—

学生主体のボランティア活動を活発に、かつ継続して行うために
有効な学生と大学の関係性は？

学生主体のボランティア活動への大学の関わり方の分析

時系列に沿って

大学の活動への介入は
時間の経過に併せて
控えていく

現状に沿って

学生・大学の双方の
努力が不可欠

心に寄り添った行動(ここより)が一番大切！
学生・大学の双方が適切な距離感
大学は学生が相談しやすい場作り・心がけを実施

学内に
ボランティアセンターを…
(双方の架け橋に)

学内ボランティアセンター設立構想

論文の執筆

研究ノート

学生主体のボランティア活動における
学生と大学との関係性の一考察
—「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—

小室 祐人

要旨

近年、学生と大学との間で大学における学生ボランティアの真の目的が異なる実状がある。ボランティア活動の手法が確立していない。本研究では、東日本大震災後から継続して活動している「岩手大学三陸委員会ここより」に注目し、学生主体のボランティア活動を活発に、かつ継続して行うために有効な学内について、特に学生団体と大学との関係性に着目して一考察を行った。

小室祐人. 学生主体のボランティア活動における学生と大学との関係性の一考察—「岩手大学三陸委員会ここより」を事例に—. 災害文化研究= Research on disaster culture: 災害文化研究会 報告, 2022, 6: 17-26.

どのような組織が
必要か**研究!**

学内に
ボランティアセンターを
設立する準備を開始!

VC構想チーム
の立ち上げ
(2022/5~)

ボランティアしたい
学生と地域を繋げる架け橋
がない!

ボランティアについての
学生の意見を聞く
ワークショップ開催!

NEXT STEP 工房(地域連携推進課)と
三陸委員会ここよりの共同企画



NEXT STEP工房ワークショップ
**ボランティアについて
考えよう!**

と言われても・・・

ボランティアって
何のためにやるの?
ぶっちゃけ
めんどくさい・・・

やりたいけど
誰に相談しよう・・・
ボランティア
センターって何?

ボランティアについての正直な想い、
のんびりと語り合いませんか?

日時: 12月10日(金) 16:50~
場所: 学生センターA棟 エントランスホール
対象: 岩手大学の学生・教職員の方々
(ボランティアへの関心が無い人も歓迎!)
★お菓子や飲み物なども用意しています!

学内有志団体：VC構想チーム

岩手大学内にボランティアセンターを設立するために立ち上がった学生団体
(2022年5月発足)



初期メンバー

他大学のボランティアセンターの運営メンバー(学生・教職員)からのヒアリング

どのようなボランティアセンターにしたいかを広く学生に聴くワークショップ

ボランティアについての勉強会

岩手大学らしいボランティアセンターを設立させる!

- ・1年後までにボランティアセンターの試運用を開始
- ・ボランティアセンターの活動を円滑に進める



6. 最後に



最後に（論文にはないですが）

今回取り上げた内容は、学生団体のみに言えることではない!?

地域づくりにおいて
外部組織が
活動するとき

後世に継承する
活動を行う際の
組織体制作り

自分の所属しない
別組織と
連携するとき

— 学生が書いた論文ですが、
皆さんの活動の一助にしていただければ・・・

ご清聴、ありがとうございました。